

たかき ともよ
高木 智代さん(44歳)

営農地:福岡市西区
主な農産物:米、カリフラワー、
カボチャ(ズッキーニ含む)、
他季節の野菜多種類



少量多品目! 元気な「街角菜園」

● 就農のきっかけ

アメリカ留学で食べたズッキーニ

高木さんの家はもともと農家でしたが、中3の時に父親が亡くなり、残された母親と4姉妹ではとても農業は続けられないと思い、地元大学の写真学科に進学。アメリカへの留学もしました。その留学中、とある街角のレストランで食べたズッキーニがなんともおいしかったそうです。

ほどなく帰国し、さっそくズッキーニを買いに出かけた高木さん。「一本500円!なんでこんなに高い?」

田畑はあったので、「こんなことなら自分で作ってみよう。」と思ったのが、農業を始めたきっかけ。

英会話講師の傍ら、母親や親戚の叔父さんから菜園管理の手ほどきを受けながら、当時まだ珍しくデパートでもあまり売られてなかった西洋野菜づくりを始めたそうです。

● 私の今~就農後の道のり~

少量多品目栽培、機械で楽々農作業

ベッドタウンとして市街化が進む姪浜地区で、少量多品目の野菜栽培に取り組んでいる高木さん。30歳を過ぎたころから本格的に野菜栽培を始め、現在は60aの畑で年間30~50種類の野菜を栽培しています。「自分が好きなもの、食べたいものを作って皆さんに食べていただく。」がモットーです。

収穫した野菜は、地元JAの直売所や福岡市内の百貨店で販売しています。ズッキーニ、カボチャ、ニンジン、カリフラワーなどの主要品目は、デザイナーの友人にシールやポップの作成を依頼し、「恋するズッキーニ」、ニンジンでは「甘い誘惑」など、消費者へのアピールにも工夫を凝らしています。

機械作業は親戚の叔父さんから教わり、今では、耕起、うね立て、施肥、マルチなどすべての作業をトラクタで行うまでに上達し、菜園はとてもきれいに管理されています。「女性は体力的に男性に劣るので、機械が使いこなせると作業がとても楽になりますよ。」と語る高木さんは、野菜のほか、親戚に管理してもらっていた60aの水田も自ら耕作を始め、地元JAに「赤とんぼ米」として出荷しています。

● これからの夢、目標

農業って面白い! 芸術活動よりクリエイティブ

地元JAでは食農ティーチャーとして認定され、ジュニア野菜ソムリエの資格も持っている高木さん。県女性農村アドバイザーとしても活躍しています。「自分で作ったものは安心・安全・おいしいと自信を持っているので、これを子どもたちや福岡市内の消費者の皆さんに分けてあげたいと思っています。5年前から学校給食向けにタマネギも栽培しています。地元の農産物に目を向けてもらい、もっともっと地産地消を進めていけたら最高です。」また、「農業って面白い! 芸術活動よりクリエイティブ。市街化の進み中、街の景観にも配慮していきたいですね。」とこれからの夢を感性豊かに語ってくれました。



プロフィール

■家族構成/本人、母、姉 ■営農年数/約13年
■耕作(経営)面積/1.2ha ■販路/JA直売所、百貨店他

就農を考えている女性へ ♡

「女だから無理。」って言われて躊躇するようではダメ。また、農業を始める場合、資金は必ず必要になるので蓄えておくべき。

自分の作る作物が大好きなこと。いい先輩を見つけること。特殊な農法や高投資型の農業など、いきなりハードルを高くしすぎないこと。ハードルは身の丈に応じて段階的に高くしていった方が上手くいくのではないのでしょうか。